

参考資料1	令和5年8月21日
	第32期青少年問題協議会 第1回専門委員会

子どもの権利委員会から出されたご意見

【全体に対するご意見】

・③若者から上の方へのアンケートには、「子どもの健やかな成長や子育てを支える施策の推進ために」というどういう計画なのかということが書いてあります。計画といっても何の計画なのか、何のための計画なのかという意味をたとえ子どもといっても、何のためなのか書いてあげたほうがとよいと思います。

・「答えにくい質問があったときは無理に答える必要はありません」の後ろに、この調査結果はどのように公表して、寄せられた意見は会議で話し合っ、計画の見直しに活かしていきますとか、新しい計画に反映していきますとか、子どもの参加というの、意見を聞いているだけでなく、その意見をどのように反映しているのかということを知ることが大事だという観点を持つこと。この調査自体も実施する・聞いているというだけではなく、調査がその後どうなったのか、その後どう活かされるかということも、説明に入れると良いと思いました。

・実際に意見を聞き、その意見が反映をされているかということはセットで聞く必要があると思うので、事前に必要な情報を子どもにわかりやすく説明しているのか、提供しているのかという設問は入れるとよいのではないかと思います。

・他の自治体で関わった際の配慮として、学年を聞くということが、不登校の子どもをイメージしたときに学校に行くことが前提のように感じられないかという意見がありました。
→例えば学年と年齢と表記を並列させるとかの配慮も必要かもしれないと思います。

・「答えたくない場合は答えなくても構いません」と一番最初には書いてはありますが、あなたの性別はという問いへの回答欄にも書いてあってもいいかなと思いました。

・いろいろ総合的に包括的に聞きたいときに、一言でまとめてあなたは幸せですかというように聞いて、それでそう思うか思わないか、またその理由だとか、幸せでいられるために大事だと思うことは何かとか、そんな聞き方をすると、自分が幸せでいるために大事なことで何だろうと考えたときに、それが今学校のことで問題があってそのことなのかもしれないし、家庭のことかもしれないし地域のこともかもしれないということを網羅できるワードなのかなと思うのでその辺りも検討するといいかもしれません。

【①小学4～6年生用】

・3 ページ問 1

どこで過ごすことが多いですか。の質問の選択肢が自分の部屋や自宅のリビングや庭と書いてある。

→アパートやマンションの部屋で子どもの部屋がある家はいいが、ない家も多い。自分の机がある場所が自分の場所という子が結構多いので言葉を変えてもらった方がよい。

・選択肢 10 番の子ども食堂ですが、私もちょっと子ども食堂をやっていて、ただコロナ禍で全然できてなくて、うちの子ども食堂もここへきてようやく再開ができた状態なので、ちょっとこれは3年ほどできてないので、選択肢に入っているのはどうかと思いました。

・5 ページ問 11

あなたは学校であったことなどについて家族の人に話を聞いての質問には、これは理念の問題があるのですが家族って何？。と思う子もいると思う。

→たとえば、里親さんに育てられている子どももいるし、家の中で親のない子（おじいちゃんおばあちゃんと住んでいる）もいます。

一緒に住んでる人とか、同じ家にいる人とか、そういう形でないと家族という言葉が子どももちょっと戸惑う子もいるのではないかな。こういう言葉遣いを今は気を付けた方がいいのではないかな。

・お父さんとかお母さんとかその他とかというところで言葉を合わせて見ていく、ことはカバーができるかというところを検討いただければいいのかな。

・大人に意見を聞いてもらえますか。というようにところには、対応してもらったかというのは何ヶ所かに一律に入れていただく方が良いか。

あなたの意見を出す場が保障されていますかとか、保障という言葉が子どもに難しければ、用意されていますかという形に変えるということはどうでしょうか。

・6 ページ問 19

大人はあなたの意見を聞いていますか。

意見を聞くというところで質問の方が終わっています。

その後の、あなたの意見や希望は叶いましたかというような、次の段階の質問も必要になってくるのではないかな。

・問 19 を検討するときに前回の質問の調査結果が何%くらいだったのかを見て、これはちょっと高すぎだなということであれば、やっぱりうまく実態が反映できてない、こちらの聞きたいことを聞けていない設問というふうに考えた方がいいかなということで、結果を合わせて検討したい。

・7 ページ問 22・23

あなたが参加した地域活動は次のうちどれですかというような質問がありますが子供たちが参加しなければならないと義務感を感じてしまうため、あなたが参加したいと思う地域活動は次のうちどれかというように変えたほうがよいと思う。

地域で何かを決めるとき、大人はあなたの意見を聞いてますかという、その地域が、漠然としているというか、町会なのか何なのか。このように聞かれたら、子どもは地域って何だろうって思うてしまうと思います。もう少し具体的に、この質問自体が結構難しい。

→小学生にとっては何て答えていいかわからない、そんな気がしました。

・問 22 とは分けて、地域活動をしたことがあるかとか、してみたいかとか、そういう質問を入れることをお願いしたいなと思います。問 22 の前に、イエスかノーで答える質問を入れる。

・問 22 について、ここでは参加の実態、参加の実情を聞かなくていいのかと思ったので、参加した地域活動でも私はいいのではないのかというのが一つと、もし地域活動に参加することが義務のように感じるのではないのかという懸念があるのなら、この質問文の「次のうちどれですか」の後に、参加した活動がなくても構いませんとか、何かそういう一言を補って、参加した活動がない場合は 10 に○をつけてくださいとワンクッション入れるような言葉を加えれば、義務感というようなことを和らげることになるのではないかと思います。

【③若者】

・4 ページ問 5

「あなたはふだんのくらい外出ぐらいしますか」という設問

→常に家で仕事をしているという項目などを入れないと、誤解されてしまうと思いました。この設問では本当に仕事も何もせずにひきこもっているという人の数を出したいのでしょうけど、こういう言葉だけでなく事実にあった内容にしないと家で仕事をして過ごす人もみんな該当してしまいます。

・8 ページ問 14

仕事に戻れる要素、働き方に柔軟性があるかとか、オンラインで働けるかといった項目はこの時代に合わせて入ってもいいのかなと思います。権利にダイレクトに繋がるのかどうかという問題はありますけど。

・問 14、15 の仕事に関する設問で、特にジェンダーの問題が入っていることも大事なのかなと思っている。やっぱり男女関係なく仕事ができる環境にあるとか、そういうところもあるといいと思いました。

また、作り直す過程で、子どものところで挙がった項目は中高生にも一律修正するような形で調整いただければと思います。

【⑤小学生保護者】【⑥中高生など保護者】

・中高生等の保護者用の表紙には「保護者の方とお子さんと回答をそろえる必要はありません。」という文言が入っていて、⑤の小学生の保護者用の表紙にはこの文言が入っていません。この文言の有無の違いは、あえて小学生のほうは親子で一緒にやるといったような状況を想像しているということなのでしょうか。

・⑥の中高生のほうでは保護者とお子さんと別々の封筒に入れて返信というふうに書いてありますけど、これはどういうシチュエーションでやるのかとか、⑤の小学生の方ではそうということが書かれていないので、その違いがちょっとわからない。

・中高生等の保護者 13 ページ目と小学生の保護者 15 ページ目のところで、「子育て支援に関する施策や事業」で、子どもの権利に関して知る場を設けてほしいという選択肢を入れて、どれぐらいの方が○をつけるかはわからないが、保護者からの要望はあるのかなということとを純粹に知るということで、どんな結果が出るか、聞いてみるといいかなと思いました。

【職員・教員等】

・5 ページ問 17

今のところかというと、行事に関してとか学校保育の教育内容についていくつか分けて、それぞれについて取り入れている、取り入れていないというところを聞いてもらうのかなという、若干設問数が増えても余裕があると思いました。

・5 ページ問 19

「あなたは、職場で子どもの話をよく聞いていますか。」について雑談で聞いていることと、悩みを聞いて相談することとは違うので子どもが先生に悩みを相談できているかどうかということです。これをひとつ設問として挙げていただきたいなと思います。

子どもの悩みをよく聞いていますか、よくコミュニケーションをとっていますかとか、そういうふうな分け方とか、が例としてはあるかなと思います。

・何について意見を聞いているかどうか、もう少し詳しく聞いていいタイミングなのかもしれないと思いました。例えば授業では取り入れやすいけれども、校則やルールについてはどうなのかとか、運営方針のところはどうなのかとか、もう少しそこを具体的に、何か決めるときに子どもの思いや考えを取り入れているかという設問は子どもの方も大人の方ももう少し丁寧聞いていいと思う。今回はそのタイミングではないかと思う。